

## 発行にあたって

現在、わが国では、経済の再生に向けて、各分野においてはさまざまな改革が進められているところであり、そこではプロのエコノミストの活躍が必要不可欠とされ、ひいては人材の育成がますます重要なものとなっています。

経済学はきわめて専門性の高い学問であり、現実の経済政策にも活用されています。しかし、経済学を学ぶ者にとって学習した成果を測る目安がなく、従来より、その習得度を客観的に評価してほしいという各方面からの強い要望も数多くありました。

「E R E」は、主として各大学の経済学部その他社会科学系学部の学生を対象に、経済学の数理的・理論的な基礎知識の習得程度と実体経済での初歩的な応用能力のレベルを全国規模で判定する経済学検定試験であり、「学習した理解度を客観的に評価してほしい」との声に呼応して日本経済学教育協会が2002年3月から実施しているものです。以来、大学の学部を問わず、また、官民を問わず、大学生や社会人に広く活用されております。

本書は、2015年12月～2017年7月に出题された過去4回分の「E R E」の試験問題とその解答を収録したものです。

本書の効果的利用によって、「E R E」にチャレンジされ、経済学の知識をより一層深められることを願ってやみません。

2017年 8 月

経済法令研究会

# Contents

発行にあたって …… i

E R E (経済学検定試験)のあらまし …… X

受験者の声 …… 285

## 2015年12月〈第29回〉



ミクロ経済学

価格弾力性…2/市場均衡の安定性…3/粗代替財・粗補完財…4/所得消費曲線…4/労働供給…5/スルツキー方程式…6/消費の双対性…7/完全競争企業の行動…8・9/等生産量曲線…10/総費用曲線…11/長期均衡における企業数…11/指数と顕示選好…12/独占企業の行動…13/クールノー競争…14/独占企業の最適生産量…14/シュタッケルベルグ競争…15/完全競争市場の効率性…16/公共財…17/外部性…17/不確実性と情報の経済学…18/ナッシュ均衡…18/異時点間の最適消費量…19・20/現在割引価値…20



マクロ経済学

国内総生産の概念…22/名目GDPと実質GDP…22/均衡国民所得…23/IS-LMモデル…24/ライフサイクル仮説…24/恒常所得仮説…25/投資の限界効率理論…25/トービンの $q$ 理論…26/マクロの投資理論…26/IS-LMモデルにおける経済政策の有効性…27/ケインズの総需要管理政策への批判…27/財政金融政策の有効性…28/貨幣需要の所得弾力性…29/テイラー・ルール…30/マクロ経済の調整過程…31/貨幣需要…32/マークアップ率の性質…33/非自発的失業…34/全要素生産性(ソロー残差)…34/フィッシャー方程式…35/期待インフレ率…36/AKモデル…36/ペバリッジ曲線…38/黄金律水準の1人当たり資本ストック…38/物価指数…39



財政学

予算制度…41/財政政策の効果…41/財政運営…42/公債…43・47/課税の効率性…43/課税の公平性…44/公共財…45/社会保障…45/地方財政…46

# Contents



資本資産価格モデル (CAPM) …48/オプションの仕組み…48/金融市場の分類…49/モディリアーニ=ミラー定理…49/銀行の資産と負債…50/インフレーションとデフレーション…50/非伝統的な金融政策…51/金融危機と銀行行動…51/ボーム=トービン・モデル…52/金融市場における情報生産…52



マーシャル=ラーナー条件…54/購買力平価説…54/関税と消費税…55/WTOのもとでの貿易制限措置…56/リカード・モデル…56/プチンスキー定理…57/金利平価…58/ヘクシャー=オリーソン・モデル…59/産業内貿易指数…60/貿易収支の変化…61



確率…63・63/確率変数の期待値…64/確率変数の相関係数…64/正規分布…65/最尤推定値…66/区間推定…66/F分布…67/最小二乗法…68/一致推定量…70

## 2016年7月〈第30回〉

### ミクロ経済学

需要曲線と供給曲線…72／価格弾力性…73／市場均衡の安定性…73／所得消費曲線…74／所得効果と代替効果…75／需要曲線…76／需要理論の双対性…77／完全競争企業の行動…78／費用曲線…79／利潤最大化・費用最小化…79／生産可能曲線…80／最適雇用量…81／顕示選好理論…82／独占企業の利潤最大化…83・84／クールノー競争…84／売上高最大化仮説…86／ゲーム理論…87／効用フロンティア…88／エッジワースボックス…89／市場の失敗…90／外部性…91／費用逓減産業…92／危険中立者…93／情報の経済学…94

### マクロ経済学

付加価値…95／ストック変数とフロー変数…96／意図せざる在庫投資…96／45度線分析…97／ケインズ型消費関数…97／恒常所得仮説…98／ライフサイクル仮説…98／投資の二重性…99／資本の使用者費用…99／投資の限界効率…100／投資の利子弾力性…101／ポリシーミックス…102／国際マクロ経済政策…102／IS-LM分析…103／財政政策と金融政策のラグ…103／オーケン係数…104／コブ・ダグラス型生産関数…105／流動性のわな…105／景気と物価の安定化…106／テイラー・ルール…107／マークアップ率の性質…107／名目シニョリッジ…108／予期されないマネー・サプライの変化率…109／ソローの成長モデル…110／カルドアの定型化された事実…110

### 財政学

財政の3機能…112／公共財…112／課税の効率性・公平性…113／社会選択…114／公債の経済効果…115／財政政策の効果…115／財政運営…116／予算制度…117／地方財政…118／社会保障…118

# Contents



貨幣乗数…120／株式のファンダメンタル価格…120／オプション価格…121／資本資産価格モデル…121／ISバランス…122／リスク・プレミアム…123／国際金融におけるトリレンマ…123／モディリアーニ＝ミラー定理…124／金融政策の効果…125／先物為替レートの計算…126



欧州ソブリン危機…127／金利平価…128／国際収支表…129／実効為替レート…130／交易条件…131／比較優位…132／関税による社会厚生…132／基軸通貨…133／環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定…134／経済成長と社会厚生…135



確率…137・137／平均・分散…138・139／正規分布…139・140／最小二乗法…141／決定係数…142／仮説検定…142／データ解析…143

## 2016年12月〈第31回〉

### ミクロ経済学

市場均衡と補助金…146／需要の価格弾力性…147／市場均衡の安定性…148／消費者均衡…149／所得効果と代替効果…150／エンゲル曲線…150／余暇と労働の選択…151／完全競争企業の行動…152／生産関数…153・153／長期均衡価格…154／要素需要関数…155／バレート最適…156／競争均衡配分…157／独占企業の行動…157／独占企業の利潤最大化問題…158／シュタッケルベルク競争…159／クールノー競争…159／公共財の最適配分…160／市場の失敗…161／情報の非対称性…161／不確実性…162／ナッシュ均衡…163／展開型ゲーム…163／異時点間の資源配分…164

### マクロ経済学

付加価値の範囲…165／国内総所得（GDI）…165／国民総生産（GDP）と国民総所得（GNI）…166／ストックとフロー…166／ケインズ型消費関数…167／2期間の消費選択…167／消費理論…168／投資の限界効率…169／マクロの投資関数…169／45度線モデル…170／租税乗数…171／IS-LMモデル…171／経済政策の有効性…172／貨幣需要…173／貨幣供給…173／貨幣の理論…174／失業の理論…175／効率賃金仮説…175／均衡株価…176／フィリップ曲線…176／インフレーションの費用…177／インフレーション（総供給）曲線…178／新古典派経済成長理論…179／資本貯蓄の黄金律…179／成長会計…180

### 財政学

予算制度…181／財政政策の効果…181／財政運営…182／公債…184／課税の効率性…185／課税の公平性…186／公共財…186／社会保障…187／地方財政…187／公共選択…188

# Contents



日本の資金循環の特徴…189／間接金融・直接金融…189／市場型間接金融…190／証券市場…190／金融機関の役割…191／金融技術…191／金融政策…192／為替の決定理論…192／郵貯・財政投融资…193／金融ミクロ理論…194



貿易政策…195／国際収支…195／経常収支…196／交易利得・損失…196／海外直接投資…197／戦略的貿易政策…198／比較優位…199／購買力平価…200／為替市場…201／関税と輸入需要曲線…201



確率…203／正規分布…203・204／確率分布…205／カイ二乗分布と仮説検定…206／標準偏差…206／最小二乗法…207／回帰係数の区間推定…208／ダミー変数…208／間接最小二乗法と2段階最小二乗法…209

## 2017年7月〈第32回〉

### ミクロ経済学

需要の価格弾力性…212／従量税の税収…212／無差別曲線…214／最適消費…215／支出割合の変化…215／レオンチェフ型効用関数…217／所得消費曲線…219／労働供給…220／利潤最大化…221・225／定額税の効果…222／操業停止価格…223／短期均衡と長期均衡…224／不完全競争…226／屈折需要曲線…226／複占…228／費用逓減産業…228／2期間の消費の最適化…229／独占の利潤…230／ナッシュ均衡…231／展開型ゲーム理論…232／不確実性と情報…233／情報の経済学…234／外部経済と外部不経済…235／厚生基準…236

### マクロ経済学

国内総生産…238・238・238／GDPデフレーター…239／45度線モデル…240／オイラー方程式…240／ソロー経済成長モデルにおける貯蓄率…241／投資の調整費用関数…242／トービンの $q$ …243／IS-LMモデル下の金融財政政策…243／非伝統的金融政策…244／実物的景気循環モデル…244／リカードの等価命題…245／貨幣需要…246／貨幣供給…246・247／乗数理論…247／インフレーション…248／IS-LM分析…248／成長会計…249／ソロー経済成長モデル…250／内生的経済成長論…251／AD曲線…251／貨幣数量説…252／マンデル＝フレミングモデル…253

### 財政学

公共財…255／課税の公平性・中立性…256／課税の超過負担…257／公債の負担…257／財政運営…258／公的年金の存在理由…258／日本の予算制度…259／地方財政…260／社会選択…260／財政支出乗数と減税乗数…261

# Contents



日本の資金循環…262／日本の金融市場…263／直接金融と間接金融…263／情報の非対称性と金融取引…264／資本資産価格モデル…265／コンソリ債…265／日本における貨幣の定義…266／為替相場と為替予約…266／貨幣乗数…267／為替制度と金融政策…267



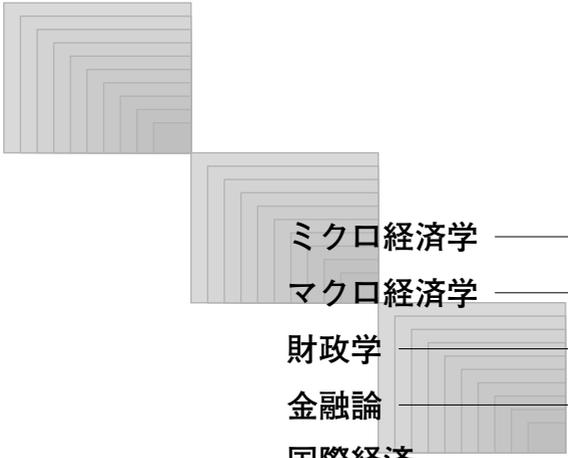
国際収支表…269／日本の経済連携協定…269／購買力平価…270／先渡し為替レート…271／労働の国際移動…271／リカード・モデル…272／関税と国内税政策…273／貿易と経済成長…275／開放マクロ経済学…276／外国の独占企業に対する関税…276



確率…278・278／分散…279／確率変数…279／不偏推定値…280／確率変数…280／F分布…281／最小二乗法…282・283・284

2015年12月〈第29回〉

# ERE試験問題・解答

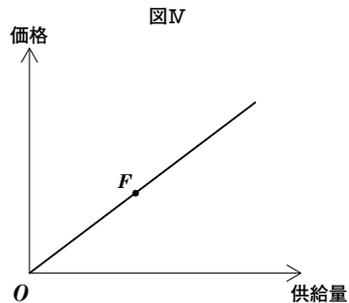
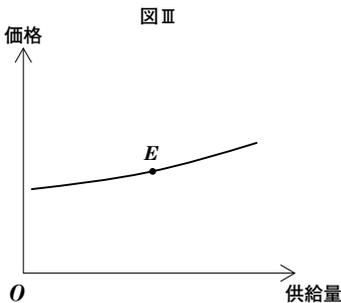
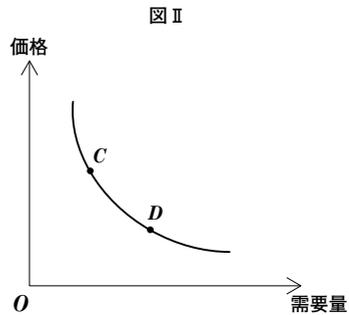
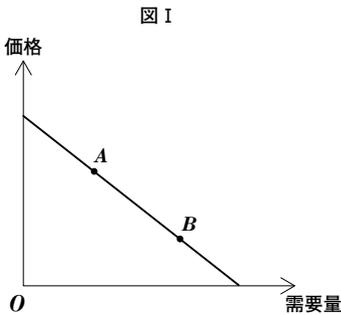


ミクロ経済学	2
マクロ経済学	22
財政学	41
金融論	48
国際経済	54
統計学	63

# ミクロ経済学

## 問 1 . 価格弾力性

以下の図Ⅰの直線と図Ⅱの直角双曲線は需要曲線、図Ⅲの曲線と図Ⅳの直線は供給曲線を表している。このとき、需要の価格弾力性と供給の価格弾力性について、誤っているものはどれか。



- (1) 需要の価格弾力性は、点Aよりも点Bのほうが小さい。
- (2) 需要の価格弾力性は、点Cよりも点Dのほうが小さい。
- (3) 点Eにおける供給の価格弾力性は、1より大きい。
- (4) 点Fにおける供給の価格弾力性は、1である。

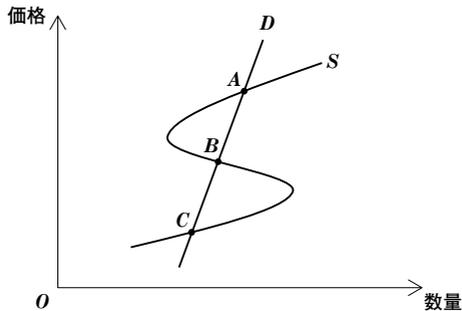
- (1)点Aよりも点Bのほうが需要の価格弾力性は小さいので、正しい。  
(2)需要曲線が直角双曲線である場合、需要の価格弾力性は需要曲線上のど

の点でも1である。点Cと点Dの需要の価格弾力性は1であるので、誤り。(3)点Eの供給の価格弾力性は1より大きいので、正しい。(4)点Fの供給の価格弾力性は1であるので、正しい。

解答 (2)

## 問2. 市場均衡の安定性

以下の図のDは需要曲線、Sは供給曲線を表している。このとき、次の記述のうち、正しいものはどれか。



- (1) 均衡点Aは、市場がワルラス的調整過程をとるとき不安定であり、マーシャルの調整過程をとるとき不安定である。
- (2) 均衡点Aは、市場がマーシャル的調整過程をとるとき安定であり、クモの巣の調整過程をとるとき安定である。
- (3) 均衡点Bは、市場がワルラス的調整過程をとるとき不安定であり、マーシャルの調整過程をとるとき安定である。
- (4) 均衡点Cは、市場がワルラス的調整過程をとるとき安定であり、マーシャルの調整過程をとるとき不安定である。

均衡点Aでは、ワルラス的調整過程をとるとき安定で、マーシャルの調整過程をとるとき不安定、クモの巣の調整過程をとるとき不安定である。したがって、(1)(2)は誤り。

均衡点Bでは、ワルラス的調整過程をとるとき不安定で、マーシャルの調整過程をとるとき不安定である。したがって、(3)は誤り。

均衡点Cでは、ワルラス的調整過程をとるとき安定で、マーシャルの

調整過程をとるとき不安定である。以上から、(4)が正しい。

解 答 (4)

### 問 3 . 粗代替財・粗補完財

ある合理的な消費者がある予算のもとで  $X$  財と  $Y$  財の 2 財のみを需要している。このとき、次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1)  $X$  財の価格が上昇するとき、 $Y$  財の需要量が増加するならば、 $X$  財は  $Y$  財の粗代替財である。
- (2)  $X$  財の価格が上昇するとき、 $Y$  財の需要量が減少するならば、 $Y$  財は  $X$  財の粗代替財である。
- (3)  $Y$  財の需要の  $X$  財価格に対する交差弾力性が 1 より大であれば、 $X$  財は  $Y$  財の粗代替財である。
- (4)  $Y$  財の需要の  $X$  財価格に対する交差弾力性が負であれば、 $Y$  財は  $X$  財の粗補完財である。

(1) $X$  財の価格が上昇するとき、 $Y$  財の需要量が増加するならば、 $Y$  財は  $X$  財の粗代替財であるが、 $X$  財はかならずしも  $Y$  財の粗代替財とはならない。よって、(1)は誤り。

(2) $X$  財の価格が上昇するとき、 $Y$  財の需要量が減少するならば、 $Y$  財は  $X$  財の粗補完財である。よって、(2)は誤り。

(3)交差弾力性は、 $X$  財の価格が変化した場合の  $Y$  財の需要量の変化に関する弾力性で、交差弾力性の式が正の値であれば、 $X$  財の価格が上昇するとき  $Y$  財の需要量が増加することになる。そこで、交差弾力性が正のとき、 $Y$  財は  $X$  財の粗代替財である。よって、(3)は誤り。

(4)交差弾力性が負のときには、 $Y$  財は  $X$  財の粗補完財である。

したがって、(4)が正しい。

解 答 (4)

### 問 4 . 所得消費曲線

ある合理的な消費者が  $x$  財と  $y$  財の最適な組合せを選択する行動

---

## ERE [経済学検定試験] 問題集 2017年12月受験用

---

2017年9月20日 第1刷発行

編 者 経済法令研究会

発 行 者 金 子 幸 司

発 行 所 (株)経済法令研究会

〒162-8421 東京都新宿区市谷本村町3-21

電話 03(3267)4811代

<https://www.khk.co.jp/>

---

営業所／東京03(3267)4812 大阪06(6261)2911 名古屋052(332)3511 福岡092(411)0805

---

印刷／日本ハイコム(株)

---

©Keizai-hourei Kenkyukai 2017 Printed in Japan

ISBN978-4-7668-5945-4

☆ 本書の内容等に関する訂正等の情報 ☆

本書の内容等につき発行後に訂正等（誤記の修正等）の必要が生じた場合には、当社ホームページに掲載いたします。

（ホームページ [書籍・定期刊行誌TOP](#) の下部 [追補・正誤表](#)）

定価は表紙に表示してあります。無断複製・転用等を禁じます。落丁・乱丁本はお取替えます。